

ある難病患者

四十年の心象風景

米山 哮 著



難波での街頭キャンペーンで
通行人に訴える米山さん

米山さんは1970年に眼に病変が現れ、ベーチェット病と診断されました。以来47年間、原因不明の難病と視覚障害の二つのハンディを背負って生き、失明後に患者運動や趣味の世界を通して感じたこと、喜びなどを折に触れて書き残したものをまとめられました。

表紙絵は、失明が避けられないと知って、信州を放浪した際に描いた米山さんの最後のスケッチ 浅間山 です。

大阪難病連、ベーチェット病友の会、松原難病連絡会の代表を務められ、現在も、大阪難病連、松原難病連で患者会活動に取り組んでおられます。

この冊子は、皆様の闘病生活の一助になるのではないのでしょうか。

(定価 千円)